（3） 麦　　類

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 黒節病 *Psudomonas syringae* pv. *syringae* （種子消毒）	1.無病圃場の種子を使用する。 2.採種、収穫までに発病株を早めに抜き取る。 3.遅播きでは発病が少なくなる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.湿粉衣は種子重量の約３％の水を添加し適度に湿らせた状態で薬剤を粉衣する。 2.浸漬処理後は種子を速やかに乾燥する。	播種前（湿粉衣）	M1 －	Ｚボルドー シードラック水和剤
		播種前（浸漬処理）	－	シードラック水和剤
2 裸黒穂病 *Ustilago nuda* （種子消毒）	1.無病圃場の種子を使用する。 2.採種、収穫までに発病株を早めに抜き取る。 3.冷水温湯浸法：種子を５～６時間冷水に浸した後、50℃の温湯で１～２分間温め、次いで、はだか麦、皮麦(大麦)は53℃、小麦は54℃の温湯に５分間浸漬し冷水で冷やす。 4.風呂湯浸法：はだか麦と皮麦（大麦）は42℃、小麦は46℃に調節した風呂湯に８～10時間浸漬する。釜下の火は水をうって消し、フタを少しあけておく。	播種前（種子粉衣）	3 1・M3 1・M3	トリフミン水和剤 (混)ベンレートT水和剤２０ (混)ベンレートTコート
3 斑葉病 *Pyrenophora graminea* （種子消毒）	1.無病圃場の種子を使用する。 2.採種、収穫までに発病株を早めに抜き取る。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.キノンドー水和剤４０は小麦に登録がある。 2.湿粉衣は種子重量の約３％の水を添加し適度に湿らせた状態で薬剤を粉衣する。 3.浸漬処理後は種子を速やかに乾燥する。	播種前（種子粉衣）	3 M1 1・M3 1・M3 1・M3	トリフミン水和剤 キノンドー水和剤４０ (混)ベンレートT水和剤２０ (混)ベンレートTコート (混)ホーマイ水和剤
		播種前（湿粉衣）	－	シードラック水和剤
		播種前（塗沫処理）	M3 －	キヒゲンＲ－２フロアブル シードラック水和剤
		播種前（浸漬処理）	－	シードラック水和剤
4 赤かび病 *Gibberella zeae* *Fusarium avenaceum* *F. culmorum* *F. asiaticum*（小麦） *F. crookwellense*（小麦） *Monographella nivalis*（大麦） *Microdochium nivalis*（小麦） *Microdochium majus*（小麦）	1.無病圃場の種子を使用する。 2.窒素肥料の過用を避ける。 3.排水を良好にする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ベンレート水和剤は、小麦の赤かび病に登録がある。 2.石灰硫黄合剤は商品によって、希釈倍数が異なるので（50～60倍の商品と100倍がある）、ラベルで確認すること。 3.病害虫防除所の試験結果から、チルト乳剤25は1,000～1,500倍、ストロビーフロアブルは2,000～2,500倍で使用する。	開花始めの頃とその７～10日後の２回	1 1 1 1 3 3 3 3 3 7 11 － 1・－	トップジンＭ水和剤 トップジンＭゾル トップジンＭ粉剤ＤＬ ベンレート水和剤 トリフミン水和剤 シルバキュアフロアブル チルト乳剤２５ ワークアップ粉剤ＤＬ ワークアップフロアブル ミラビスフロアブル ストロビーフロアブル 石灰硫黄合剤 (混)スミトップＭ粉剤
5 うどんこ病 *Blumeria graminis* f. sp. *tritic*（小麦） f. sp. *hordei*（大麦）	1.遅播き、肥料過多は発病を多くするので適正な肥培管理を行うとともに倒伏させないようにする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.発病を認めたら、早めに散布する。 2.水和硫黄剤（イオウフロアブル、サルファーゾル）は28℃以上の高温では使用しない。	発病直後	3 3 3 3 － M2 M2 1・－	トリフミン水和剤 シルバキュアフロアブル ワークアップ粉剤ＤＬ ワークアップフロアブル 石灰硫黄合剤 イオウフロアブル サルファーゾル (混)スミトップＭ粉剤

麦類

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
6 さび病 （黄さび病） *Puccinia striiformis* var. *striformis* （赤さび病） *P. recondita*（小麦） （黒さび病） *P. graminis* subsp. *graminis* （小さび病） *P. horde*（大麦）	1. 被害茎葉は収穫後に圃場の近くに残さず、堆肥にするか、処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1. シルバキュアフロアブル、カナメフロアブルは小麦の赤さび病に登録がある。 2. ワークアップ粉剤ＤＬ、ワークアップフロアブルは麦類の赤さび病に登録がある。	発病直後	3 3 3 7 －	シルバキュアフロアブル ワークアップフロアブル ワークアップ粉剤ＤＬ カナメフロアブル 石灰硫黄合剤
7 縞萎縮病 ＢａＹＭＶ（大麦） ＷＹＭＶ（小麦）	1. 大麦、はだか麦栽培地で、本病の多発地では、播種をできるだけ遅らす。 2. 排水を良好にする。 3. 未発圃場への伝搬防止を図る。 4. 発生地域では土を持ち出さないよう、トラクター等の農機具や長靴等に付着した土を圃場内に落としてから出る。作業後は洗浄を徹底する。 5. 大麦縞萎縮病発生地では小麦を栽培する。			
8 株腐病 *Ceratobasidium gramineum* *Ceratobasidium cereale*	1. 播種前に石灰質肥料を充分に施す（消石灰を10ａ当たり150kgなど）。 2. 多肥、密植を避ける。 3. プラウ耕を行い、地表面にある被害残さや菌核を土中に埋め込む。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1. アルカリ性薬剤との混用は避ける。 2. アミスター２０フロアブルは、小麦に登録がある。 3. アミスター２０フロアブル塗沫処理で、若干発芽率が低下することがある。 4. ベンレートＴコートは、大麦に登録がある。	播種前（塗抹処理）	11	アミスター２０フロアブル
		播種前（種子粉衣）	1・M3	（混）ベンレートＴコート
9 アブラムシ類	1. 乳熟期ころから、テントウムシ、ヒラタアブ、クサカゲロウ類などの天敵が盛んに捕食するので、捕食によりアブラムシ類が減少しつつある場合は殺虫剤の散布を避けてもよい。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1. エルサン乳剤・粉剤２、トレボン乳剤は小麦にしか登録がないので注意する。	発生初期	1B 1B 1B 3A 3A 1B・－	スミチオン粉剤２ＤＬ エルサン乳剤 エルサン粉剤２ アグロスリン乳剤 トレボン乳剤 （混）スミトップＭ粉剤